

戦争の悲劇 歌で訴え

きょう
う
広島・原水禁世界大会

京のシンガーソングライター出演

6日に広島市で開かれる原水爆禁止世界大会に、京都市東山区のシンガー・ソングライター野田淳子さんが出演し、米軍基地問題を題材にしたオリジナル曲などを歌う。野田さんは「戦争の悲劇が決して過去の問題ではないことを、海外からの参加者や日本の若い世代の感性に訴えたい」と話している。

「平和、分かち合う」

十数カ国から参加者を招いた。野田さんが歌う「千羽鶴」は、国内の米軍基地の軍用機墜落事故を取り上げる。「時を超えて」は、エスペラント語を学ぼうとして志半ばに亡くなった青年の実話に基づき、真実と自由を求める大切さを訴える。野田さんは一九七〇年のデビュー以来、平和や環境、過労死問題など命の尊さを伝えてきた。「子どもの中で歌うと、メッセージを理屈や知識でなく心で受け止めてくれる。国や言葉、世代の違いを超えて平和の大切さを感性で分かち合いたい」と話している。

大会は原水爆禁止日本協議会(原水協)の主催で四日から始まり、平和運動に携わる三

原水爆禁止世界大会に出演する野田さん(京都市左京区内)

